

第1交流分科会 子どもをとりまく諸問題と居場所づくり

【地域文化と福祉の創造】

現代の子どもは、貧困や虐待の問題も含めて、多かれ少なかれ多様な生きづらさを抱えて暮らしています。そのような子どもたちが生き生きと将来に希望を持って生活していくために、わたしたちにできることは何でしょうか。学校や家庭以外の子どもの居場所をつくり、子どもの育ちを支えていく活動について、商店会による地域活性化、子ども食堂、冒険遊び場等での実践者に発表をしていただき、参加者で話し合っていきたいと考えています。

話題提供者 山田 重子（妙法寺門前通り商店会・清水屋）
天野 敬子（NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク事務局長）
神林 俊一（一般社団法人プレーワーカーズ事務局長）

コーディネーター 川北 典子（平安女学院大学）

コーディネーター略歴

平安女学院大学短期大学部保育科教授。児童文化学、保育・幼児教育学を研究分野とし、現在は、玩具や遊具を含めた子どもの遊びや医療施設での保育等に関心をもっている。単編共著『子どもの育ちを支える児童文化』（2015、あいり出版）、共編著『子どもの生活と児童文化』（2015、創元社）など。

妙法寺門前通り商店会の地域活動

山田 重子（清水屋）

妙法寺門前通り商店会は、厄除けのお祖師様で知られる妙法寺の門前にあります。毎月3日・13日・23日は妙法寺のご縁日で、かつては参詣客も多く見えました。しかし時代の波の影響で商売もままならず、年齢はうそをつかず容赦なく自分たちの衰えを表しています。そんな中で、商店街に人を集め、地域を元気にしたいと商店会活動を始めました。

そこでわかったことは、商店会だけでは何もできないことでした。妙法寺、堀之内のすべての町会、近隣の学校関係の方々、杉並区役所など様々な方々が協力してイベントを開催しています。明るく元気な子どもたちに育ってほしいと願いはじめた夏祭りは、今年で8回目を迎えました。また、2014年から秋に開催している千日紅市は、新しい時代の縁日を創ろうと、千日紅という花を地域ぐるみで育て、仲間を増やしながら進めています。

地域の活動で気を付けていることは伝統ある歴史、日本の文化の継承です。子どもたちには最初から本物を目にさせていただき、将来に向けて語り継いでいただきたいと強く願っています。

略歴

清水屋女将。2008年より夫で妙法寺門前通り商店会会長の山田博氏とともに商店会主催イベントの企画運営に携わる。千日紅同好会会長。

地域を変える/子どもが変わる/未来を変える

天野敬子（NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク事務局長）

豊島子ども WAKUWAKU ネットワークは、「子どもの貧困」をテーマに、地域の子どもの地域で見守り育てることをコンセプトとして活動している地域住民主体の NPO です。

日本の子どもの相対的貧困率は 16.3%と悪化しており、6人に1人の子どもが貧困状況にあります。遊びサポート、学びサポート、暮らしサポートの3本柱で子どもを包括的に支援し、貧困の連鎖を断つことをめざしています。

「要町あさやけ子ども食堂」の他に「椎名町こども食堂」「池袋こども食堂」「ほんちよこ食堂」と4つの子ども食堂を現在、運営しています。また、孤食の子ども達を対象に登録制で「夜の児童館」を開催し、家庭的な時間を提供しています。

今年度、「ホームスタート」という新規事業を始めます。イギリスで始まった取り組みで、子育て先輩ママが、子育て中のママさんのところにボランティアに訪問支援をします。なるべく早期にご家庭との関わりをもちたいと考えています。

また、食の支援の次に住の支援が必要という思いにいたりしました。現在、豊島区内の一軒家を探しており、“WAKUWAKU ホーム”の設立を夢んでいます。

略 歴

NPO 法人豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク事務局長

不登校・ひきこもり研究所代表。精神保健福祉士、ダンスセラピスト

昭和 56 年 3 月神戸大学教育学部卒

平成 18 年 3 月大正大学大学院人間学科社会福祉学専攻修士課程修了

居場所づくりをテーマに地域活動に専心している。

豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク編著『子ども食堂をつくらう！』明石書店

子どもの命と心は遊びで育む

神林 俊一（一般社団法人プレーワーカーズ事務局長）

遊びを通して子どもを見つめ寄り添い、大人と関わる「冒険遊び場」。冒険遊び場は 1943 年にデンマークで生まれました。遊び方の可能性が豊かで、子どもの探究心や自主性を刺激し、遊び仲間の集団が自然発生的に形づくられたりと完成形はなく、地域の文化に溶け込んで変化しつづけていく遊び場です。2011 年東日本大震災、子どもの心のケアを旗印に住民と協働して冒険遊び場を開所しましたが、心の傷を負った子どもたちは暴力的に胸の内を曝け出しつづけてきました。私は遊び場で見せる子どもの姿は社会の窓だと思います。遊び場で見せる子どもの素の表情は子どもの生きにくい環境を浮き彫りにします。私は子ども一人一人に対して社会が変化していく環境づくりが必要だと思います。その方法の一つが冒険遊び場にあるのではないのでしょうか。

略 歴

いじめ・不登校の中、冒険遊び場に出会う。2010 年度、東京都次世代育成支援行動計画にて、チャイルドファシリテーターとして子ども 300 人大人 100 人をヒアリングし、普通の町中に心の貧困を抱える多くの存在を知る。2011 年 4 月、東日本大震災直後、住民主体の冒険遊び場「気仙沼あそびーばー」を開設し、その後、NPO 法人日本冒険遊び場づくり協会宮城県北部長を務め、2015 年にプレーワーカーズを設立。大谷幼稚園評議委員、地方創世戦略会議委員、気仙沼市子ども子育て会議委員 1・2 期を歴任。